
僕の日常

sold out

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の日常

【Nコード】

N8986Z

【作者名】

s o l d o u t

【あらすじ】

主人公を中心に様々な人の心情が変化していく。

題名通り主人公の日常が綴られています。中には非日常もあったりします。

プロローグ（前書き）

前書きとか多いとイライラすると思うので少なくともしようと思います。

プロローグ

「ねえねえ、なまえなんていうの?」

「だよ」

「いっしょにあそぼうよ」

「そうだね。いっしょにあそぼう」

「お母さん　　ちゃんとあそぶからまってね」

「ふふ、気を付けるのよ」暖かい眼差しで息子を送り出す。

「　　ちゃん。上にカブトムシいるよ」

「とってちょうだい」自分から声をかけたのにその言葉を無下にできないので少年は

「待っててね。すぐとってくるから」少女に頑張っつてねと言われ、少し照れるが表情に出さないようにしているが出ている。

そして木を登りきり下を見ると急に怖くなりお母さんと呼ぶ。

「お母さん。こわいよ。たすけて」声がとても震えているのと同様に足も震えていた。

「大丈夫。だってあなたは　　」

入学初日 # 1

「……………さい」

「起きてください」

寝ぼけた目を半分開く。するとそこには、きれいな顔をした美少女が僕の体を揺すっていた。

「学校に行く時間ですよ。そろそろ起きて準備してください」何回も起こされているので仕方なく起きて

「わかったよ。今から着替えるから出ていってくれないか？」ベッドから立ち上がりズボンに手をかけると少し顔を赤くしながら部屋を出ていく。

そして、着替えが終わり顔を洗いいりびングへ行く。

「朝ご飯が出来ているので早く食べてくださいね」テーブルの上には色とりどりのサラダと食パン、ブラックコーヒーがあった。

「ありがとう。いつも言ってるけど透華、別に毎朝作らなくてもいいんだぞ」毎回言っていることを今日も伝える。少し悲しそうな、寂しそうな顔をしてから

「気にしないでください。お母さんにもよろしくと言われてるので」

「ああ…母さんがね…」僕の母は、生物学者の研究者で今はアフリカで象の生態調査なんかをしている。ちなみに父も同じ生物学者の研究者で今は北極でホッキョクグマの生態調査をしに行っているのだ。

「とりあえず早く食べちゃってくださいね」そう言うと僕が食べ終えるまでテレビを見ていた。食事を終えると透華に声をかける。その後家に鍵をかけ、学校へと向かう。

僕たちの通う学校の名前は私立来龍学園である。

来龍学園は生徒人数約900人の大規模な学校であり、またここら
ー帯では、学力、スポーツ共にトップレベルの学園であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8986z/>

僕の日常

2011年12月28日06時48分発行